

会報

幸わせ

第206号

発行者
 社会福祉法人
 長野市身体障害者福祉協会
 理事長 小林和夫
 〒380-0904
 長野市大字鶴賀276-10
 (長野市障害者福祉センター内)
 電話 228-3014
 ファクス 226-6263

令和四年度事業報告、

決算の承認及び役員を選任

理事長あいさつ

小林 和夫



令和5年6月15日の定時評議員会において、役員改選の決議をいただき、新

理事及び監事が選任されました。評議員会終了後に開催された理事会の決議により、新理事長・副理事長が新たに選定され、私が理事長に再選されました。平成29年4月1日に施行された新定款のもと、理事長着任から4期目の就任になりますが、会員の皆様のご理解、ご協力を切にお願いいたします次第です。今回の役員改選では、理事の人数が定款で定めるギリギリの6名となりました。大きな課題の1つであります。



さて、3年余にもわたった新型コロナウイルス感染症禍も、令和5年に入ると、世界的に収束の状況を表し、日本では5月8日から感染症予防法上のコロナの扱いがインフルエンザと同等の5類に移行となりました。このような状況下、今年こそは最大の感染予防に心掛けて、充実した運営に取り組むことが期待されていると考えます。

新役員一丸となつて、協会運営に遅滞をきたすことのないように努力することを誓います。結びに、皆様のご健康を祈念して、ご挨拶いたします。

○理事会

役員全員（理事7名・監事2名）と相談役が出席し、5月25日に第1回理事会が開催されました。

議案は、第1号「令和4年度事業報告」、第2号「令和4年度決算」、第3号「定時評議員会の招集」及び第4号「役員選任候補者の推薦」についてであり、いずれも全員の賛成により承認・招集・推薦の決議が行われました。

また、6月15日定時評議員会終了後の第2回理事会（理事6名・監事2名）では、同日定時評議員会において選任された新理事の互選により、理事長及び副理事長が選定されました。

○定時評議員会

評議員9名中7名が出席し、6月15日に開催されました。

議案は、第1号「令和4年度決算」及び第2号「任期満了に伴う役員を選任」であり、いずれも全員の賛成により承認及び選任されました。

（評議員・役員の名簿は

3ページに掲載しています。）

令和四年度事業報告

（以下、事業報告資料から抜粋）

令和2年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症は、次々と新株に形を変え、令和4年度に第6波、第7波、第8波と感染を拡大させてきました。

年が明け、令和5年に入り、ようやく感染が落ち着き、2月に県の「医療アラート」が解除され、感染警戒レベルも「小康期」に引き下げられました。マスク着用の個人判断へ緩和、5月には感染症予防法上の位置付けを2類相当から、インフルエンザ並みの5類へ移行する方針が決定されています。このような中、リスクを抱える私達は決して油断してはいけないことを念頭に置き、感染防止対策を十分に考慮した上で、事業執行に心掛けてまいりました。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めながら、会議、大会、研修会等の開催について、開催の可否を判断し、安全面に配慮しながら開催しました。一部、書面による会議に変更する対応もおこなわれました。

5月には、新型コロナウイルスの間隙を捉

えて、監査及び第1回理事会を実施することができ、令和3年度の事業報告、決算の承認、定時評議員会の召集を決めることができました。6月の定時評議員会、第1回支部長研修会、同支部長会も実施することができました。7月以降、再び新型コロナウイルスの感染が拡大したことから、希望の旅、長野市身体障害者福祉大会等々は全て中止といたしました。ただし、福祉大会中止で、大会での伝達式は行えませんでした。1名の方へ理事長表彰の伝達を行いました。11月の障害福祉課長との懇談、第2回理事会、12月の市長懇談は幸いにも実施できました。1月中旬は、新型コロナウイルスが再拡大し、各事業は中止としました。2月中旬からコロナが落ち着いてきたため、3月の第3回理事会、支部長研修会、第3回支部長会等々を実施することができたため、幸いにも令和5年度の事業計画及び予算をスムーズに確定でき、さらに、それらを各支部長へ報告することができました。

館となり、その間の理事会、評議員会等の各事業は外部施設での実施となりましたが、なんとか代替会場の確保ができ、実施することができました。コロナ禍で優先すべきことは、会員・役員・関係者等の健康と安全・安心の確保です。この考え方を基本に、これからも諸活動を進めたいと考えています。以上が「新型コロナウイルス感染症」により、事業執行に大きな影響を受けた令和4年度の事業報告です。令和4年度の事業活動の主なもの、次のとおりです。

1 組織体制の強化・充実

令和4年度、支部9、会員600名弱の体制でスタートしました。

退会された支部の方々への、本部会員への入会のお誘いは、進展が難しく、会員増加の状況は遅々として進んでいません。

このような状況の中、年度末には、会員数の多い若穂支部が解散の状況に至りました。

会員の高齢化に伴う支部の減少は必然的な結果であります。この結果を防止する唯一の手段・方法は、若

年会員の入会の促進のみと考えます。これは、長年実現ができていない最も困難な事業です。しかし、このことは協会が最も重視すべき課題であると考えます。

協会の魅力を何としても見出し、掲げて、人々へ働きかけていかなければならないと考えます。

2 障害者福祉増進のための諸活動

障害者等の「共生社会づくり」の実現を目指す、「第2次長野市障害者基本計画」、「第6次長野市障害者福祉計画」、「第2次長野市障害児福

祉計画」は、策定から2年度目となりました。「基本計画」の「共生社会づくり」という基本理念の達成、並びに2つの「福祉計画」の評価の公表を注視するところです。

長年制定の要望を繰り返ししてきた、「長野県障害者差別禁止条例」は、令和4年4月1日、「障がいのある人もない人も共に生きる長野県づくり条例」の名称で施行されました。条例において、障害者の「合理的配慮」を求める意思表示に対する「事業者」の対応のあり方は、「行政

令和4年度 決算（法人本部事業）

(単位:円)

区分	科 目	予算額	決算額	差 異
収 入	会費	204,000	156,096	47,904
	余暇活動支援事業	60,000	0	60,000
	広報活動事業	100,000	100,000	0
	健康教室事業	15,000	0	15,000
	受取利息配当金	500	27	473
	雑収入	39,500	44,806	-5,306
	事業区分間繰入金	5,000,000	2,000,000	3,000,000
	合 計	5,419,000	2,300,929	3,118,071
支 出	人件費支出	2,328,600	1,642,913	685,687
	事業費（助成金）	1,289,200	197,800	1,091,400
	大会参加	208,200	3,170	205,030
	部会活動	193,000	170,000	23,000
	支部活動	69,000	14,630	54,370
	本部活動	489,000	0	489,000
	研修	330,000	10,000	320,000
	事務費支出	1,801,200	1,375,683	425,517
	旅費交通費	315,400	73,969	241,431
	広報費	300,000	245,778	54,222
	諸会費	553,400	518,400	35,000
	その他	632,400	537,536	94,864
	合 計	5,419,000	3,216,396	2,202,604

と同じ「責務」と定められたことが大きな特徴です。

障害者の「合理的配慮」を求める意思表示に基づく社会的障壁の改善と、さらに「行政」と「事業者」の日常の業務の中での社会的障壁の事前の改善の2つが噛み合えば、「共生社会づくり」という基本理念の達成はより効率的になります。

障害者の「合理的配慮」を求める意思表示の積極的な行動が大切です。障害者の「合理的配慮」を求める意思表示が出なければ、その声に対応する社会的障壁の改善の行動は決して生じないことを強く自覚しなければなりません。

3 啓発活動の推進

(1) 協会の会報「幸わせ」を年4回発行しました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大による各種事業の中止に伴い、掲載記事の確保が困難となったため、10月はA4版2面の縮小版となりました。

(2) 視覚障害の希望者に、会報「幸わせ」を朗読し録音した「声の会報」を作成し送付しました。また、点字版会報を発行し希望者に配布しました。

(3) 新規に身体障害者手帳を取得された方へ協会のパンフレットを配布し、会員加入に努めました。

(4) 協会のホームページを活用し情報公開に努めました。

(5) 長野県身体障害者福祉協会発行の会報「こころの友」の配布に協力しました。(年2回)

4 障害者福祉センター運営事業

当協会は、長野市から指定管理者として「長野市障害者福祉センター」の管理運営を受託(平成18年度〜令和2年度)してきており、令和3年度には更に5年間(令和3年度〜令和7年度)の指定を受け、4年度は2年度目でした。

令和4年度は、長野市によるセンター長寿命化改修工事が実施されたことから、6月から翌3月末まで休館となりました。しかし、指定管理事業である「余暇教室」「機能トレーニング教室」「スマートフォン・タブレット活用講座」は、リサイクルプラザを借用し、実施しました。(新型コロナウイルス感染拡大時は、休止しました。)
「広報ながの」を朗読し、録音した「声の広報」を作成し、希望者に送付しました。

5 会議の開催

- (1) 評議員会 1回
- (2) 理事会 3回
- (3) 正副理事長会 12回
- (4) 会報編集委員会 8回
- (5) 支部長会 3回

マレットゴルフ大会開催

6月1日、犀川第2運動場において青年部の主催により開催されました。4年ぶりの大会は、好天に恵まれました。優勝者は、左記のとおりです。

- 18ホールの部 佐々木 康弘 さん(朝陽)
- 9ホールの部 三戸部 永子 さん(大豆島)



理事・監事名簿 (任期：令和5年6月15日から令和7年の定時評議員会終結の時まで)

役職名	氏名	経歴・現職	役職名	氏名	経歴・現職
理事長	小林 和夫	更北支部長	理事	五味 美穂子	女性部長
副理事長	丸山 勝	裾花支部長	〃	徳武 利明	元鬼無里支部長
副理事長	丸山 顕	朝陽支部長	監事	中村 順蔵	元朝陽支部長
理事	玉木 秀明	柳原支部長	〃	西 正夫	戸隠支部事務局長

評議員名簿 (任期：令和3年の定時評議員会終結の時から令和7年の定時評議員会終結の時まで)

氏名	経歴・現職	氏名	経歴・現職
田口 輝雄	元芹田支部長	須藤 今朝信	青年部長
岩下 一實	元柳原支部長	武藤 文子	市視覚障害者福祉協会会長
高見澤 徳三	元浅川支部長	保坂 貞子	元市聴覚障害者協会会長
轟 亮一	大豆島支部長	伊藤 篤志	市民生児童委員協議会長
久保田 篤	元中条支部長		

支部だより

大豆島支部長 轟 亮一

私達大豆島支部は今年結成四十二年、会員数四十二名で活動をしています。会員の高齢化で役員のみならず、文書の配布及び連絡等地區を掛け持ち合いながらの活動が現状です。新規会員の入会がほとんど見込めない今日、大豆島地区住民自治協議会の皆様、地域住民の皆様のご協力をいただきながら私達も友人知人との対話を通じて新規会員の勧誘に今後も努めてまいりたいと思います。

コロナ禍の三年間はいろいろな事ができず残念でしたが、今年は障害者スポーツ大会、福祉大会等いろいろな行事に地區の結束のためにみんなで誘い合い、参加できるようにしたいと思います。また、支部研修とレジャーの会等会員が少人数ですが、何とか会員に参加していただき、親睦を図りたいと思います。私達も高齢になっていきますので若い方々に良い方法で歴史ある支部をつないでいきたいと思えます。これからも皆様のお力をお借りして活動を進めたいと思えますので、よろしくお願ひいたします。

「第26回長野県障がい者文化芸術祭 in ながの」の作品募集

長野県などが主催する長野県障がい者文化芸術祭が開催されます。9月開催の会場展示のほか、ウェブサイトでの展示もあります。市協会事務局に開催要項、募集要項、出品申込書がありますので、出品を希望される方は、ご連絡ください。

- ◆応募部門 絵画・手芸・工芸・書道・写真・文芸（短歌、俳句、自由詩）・川柳
- ◆申込み締切日 令和5年8月4日（金）
- ◆作品展示期間 令和5年9月23日（土）、24日（日）
- ◆作品展示場所 長野県障がい者福祉センター「サンアップル」

協会員の皆様へ

当協会では、協会員の募集を行っています。ご近所に身体障害者手帳をお持ちの方がいましたら、入会のお誘いをさせていただき、増員にご協力をお願いします。

協会事務局電話番号 228-3014

長野市身体障害者福祉大会 開催します

4年ぶりに長野市身体障害者福祉大会を開催します。出席申込みは、支部長又は事務局までお願いします。

日時 10月7日（土） 午後1時30分
場所 障害者福祉センター

「さわやか合唱交流会」鑑賞希望者募集します

親睦旅行の代替事業として、10月26日（木）13時から長野市芸術館で開催される「さわやか合唱交流会」を協会で鑑賞します。20席を確保しましたので、鑑賞を希望される方は8月25日までに支部長又は事務局まで連絡をお願いします。希望者が20名を超えた場合は抽選とします。

長野県立美術館

「障がいのある方のための特別鑑賞日」

障害のある方が安心して美術館へ行くことができるように、休館日に開館し、鑑賞できる機会です。鑑賞

行事予定

- ◆長野市身体障害者福祉大会 上記のとおり
- ◆「さわやか合唱交流会」鑑賞 上記のとおり

事業計画で予定していた次の行事は、中止になりました。
10月予定 親睦旅行
1月予定 新春の集い
2月予定 会員・家族合同慰安会

を希望される方は10月6日までに事務局へ連絡をお願いします。

特別鑑賞日 10月25日（水）

午後1時～午後5時

編集後記

長野マラソンのボランティアでホワイトリングへ給水係として朝陽支部より五名参加。昨年、新型コロナウイルスで演奏できなかった中高生のブラスバンドも参加して賑やかだった。演奏によりマラソンランナーを元気づけられたと思う。八千名程がゴールを目指し通過した。この中に障害者ランナーや車いす走者もいた。

編集委員 丸山 顕